

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900143		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家伏見深草 ユニット2		
所在地	京都市伏見区深草小久保町302		
自己評価作成日	令和4年8月8日	評価結果市町村受理日	令和4年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員間のチームワークを大事にしており、協力し合いながら取り組んでおります。コロナウイルス感染予防の為、ご家族様の面会を制限させていただいております。電話や月末に送らせて頂いている通信にてご利用者様の状態を細かくお伝えさせていただいております。受診以外の外出は中止させていただいており、その状況でも楽しく過ごしていただけるよう、毎日体操で身体を動かし、月1回以上は必ずレクリエーションを実施させていただいております。毎月、フロア会議を実施し、各ご利用者様の状態、今後のケアについて話し合いをさせていただき、寄り添った支援を行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jizvsvocd=2690900143-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jizvsvocd=2690900143-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和4年8月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたのしい家伏見深草は、株式会社ケア21により、2011年6月に開設されました。利用者定員は18名で、現在の入居者数18名、平均年齢は89.2歳、平均介護度は3.17です。コロナ禍で外出や地域との交流は制限が続いています。利用者の体力維持や気分転換のため、体操の時間を午前と午後2回組み、ラジオ体操やCDを使用しているリハビリ体操を継続し、脳トレーニング、ジェンガ、黒ひげ危機一髪、お手玉など、刺激のあるレクリエーションを取り入れています。壁に貼られた誕生日や行事の写真は、利用者の笑顔であふれています。「話しやすい環境があり、人間関係の良い職場です。離職者が少ないことにもつながっています」との職員の言葉があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で施設ビジョンを作成し、全職員で取り組んでいます。採用面接時にも理念を実現し、達成してもらう同意を得ています。	ケア21ビジョン「家庭的な生活～自分らしく、楽しく、生きる～」に沿い、生活向上リハビリ、認知症緩和、地域交流の3視点で、事業所の行動計画を立て事業展開している。カンファレンス時に支援の在り方を振り返り、期末に各職員は「ビジョン評価シート」を書き、管理者はこれをまとめ、会社に提出している。常に「温かい雰囲気」をかもし出す努力をおこない、誕生日カードやイベントの写真などで、実践状況を発信している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染者が少ない時に一度近くの公園で地域のイベントにケアマネジャーに参加して頂きましたが、その他のイベントは感染予防の為欠席させて頂いており、事業所開催のサロン会も中止しております。	町内会に入会して、回覧板で地域の情報を得ている。コロナ流行以前は、近隣の小学校や保育園との交流、地藏盆への参加、認知症カフェ(たのしい喫茶)の開催、地域包括支援センター主催の「サロン会」への参加など、地域の人たちと交流があったが、コロナ禍で全てが自粛である。感染減少時に、空手の実技を公園でおこなうとの案内があり、職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヵ月毎に地域のボランティア、民生委員、地域包括、予防推進センターの協力を得ながらサロン会を開催し、ご近所の方との交流の場をもっていました。コロナウイルス感染予防の為中止しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、ご利用者様、ご家族、民生委員、地域包括支援センターの方に参加して頂き、サービスや運営の向上に活かせる意見交換をしていましたが、現在は自施設職員のみで開催しています。	コロナ流行前は、利用者、家族、民生委員2名、地域包括支援センター職員のメンバー構成で開催していた。コロナ禍では、職員のみで会議を開催して、結果を外部メンバーに書面で報告しており、意見や助言はあまり得られていない。事業所からの報告は、日々提供しているサービス内容や、事故、ヒヤリ・ハットなどがある。家族に会議の案内と議事録の送付をおこなっている。	会議の目的から考えると、外部のメンバーから意見や助言を得る運営が望ましい。議案書は先に外部メンバーに渡し、意見や助言を得た上で職員間で検討することが望まれる。議案書の内容によっては、資料をつけるや詳細に記するなど、工夫を期待する。

京都府 グループホームたのしい家伏見深草 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の報告や運営推進会議の議事録の提出等で行政の窓口へ訪問しています。行政主催の研修や連絡会にもできる限り参加しています。	行政には、運営推進会議議事録や事故報告書を届けている。必要に合わせて、相談や助言を得ており、随時、電話での相談もおこなっている。「深草介護サービス連絡会議」がWEBで開催され、精神科医や各事業所、行政、地域包括支援センターが参加して、事業所間で情報交換をおこなっている。また、地域のケアマネジャー会議もWEB会議でおこなわれ参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を本社より配信され、全職員が受講し、知識を身につけています。フロア入口は施錠していますが、外出希望の利用者様には、散歩に出るなど閉塞感のないように心掛けています。	「虐待・身体拘束適正化検討委員会」は、2か月ごとに開催している。議事録は「CAREログ」で職員に回覧している。研修を本年度はオンラインで実施し、参加後に研修報告書を提出している。「虐待の芽チェックリスト」を年1回おこない、必要に合わせて面談もしている。丁寧なケアを目指しており、職員の困っていることや提案は随時話し合っている。利用者からの暴言・暴力などを共有し対処法を統一している。外に出たい様子が見られた時は、手伝いをお願いしたり、興味を引く方法で気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を本社より配信され、全職員が受講しています。他施設での事案の検証や全職員がチェックリストを記入し、事業所での振り返りを行い早期発見と見逃すことのないよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外の研修に参加し理解を深めています。現在、研修は開催されていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、運営方針・金銭面・契約内容について詳細に説明し、理解・納得の頂けるように努めています。		

京都府 グループホームたのしい家伏見深草 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、法人によるアンケート等で家族様から意見やご要望をお聞きしています。意見要望箱を玄関に設置し、会議等で情報共有し運営に反映させています。	家族は、面会制限があることに不満があるが、納得もされている。オンライン面会は約半数の家族が利用しておられる。会社が年1回、顧客満足度調査(アンケート)をおこない、結果は事業所にも報告があるが、苦情や意見、要望はほぼない。外部評価に先立ちおこなったアンケート調査でも、感謝の言葉が多い。利用者から聞き取った諸要望は、レクリエーションや介護計画に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で施設の課題を共有し改善に取り組んでいます。年に1回従業員満足度調査のアンケートを実施し、定期的な個人面談を行い、意見を聞く時間をとっています。また研修報告書で気になるスタッフにも面談をさせていただいております。	管理者はフロア会議で、職員からの諸意見を聞き取っているが、介護記録Cアプリの中の管理日誌(施設連絡とフロア連絡)でも、職員の意見、要望を受けている。設備に対する修繕や修理の希望が多くある。食事形態についての検討もしている。「話しやすい環境があり、人間関係が良い職場である。離職者が少ないことにもつながっている」と、職員ヒアリングでの発言がある。年1回、職員は管理者との個人面談の機会があり、個人目標や諸意向を述べている。また、職員(パートを含む)は、それぞれ係の役割を持ち、責任を果たしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課があり、職員個々の努力や実績を把握し給与に反映しています。段位認定制度で技術面での評価制度を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員は本社で3日間の研修を受け、その後も定期的に研修が実施されています。チューター制度を用いて、個々の能力を高めています。チームワークを大事にしと経験を積んでいただいております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	深草の事業者連絡会に参加し情報交換等の機会をもてるようにし、サービスの向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報を会議や資料を通じて職員間で共有し、安心して頂けるようなコミュニケーションをとるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に現在の状況を確認し、困っておられる事や不安を傾聴し、出来るだけ迅速に対応できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状に対し、どのようなサービスが適しているか、ご本人、ご家族と話し合いながら必要なサービスを受けることができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物たたみのお手伝いやレクリエーションを通じ馴染みの関係を築いています。現在はコロナ対策で離れた場所での対応となりましたが普段は一緒にテーブルで楽しく食べていました。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様がどのように過ごされてきたのか等、家族、職員でカンファレンスを実施し、介護計画を作成し実践しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	継続できるものは支援しています。友人や知り合いの方にも、訪問して頂ける環境を整えています。現在の来訪は控えて頂いていますがお手紙や、オンライン電話を実施させていただいております。	コロナ禍で利用者の外出の機会は、病院や診療所への受診のみである。家族とは手紙やオンライン面会をおこなっている。担当介護士は毎月、利用者の暮らしの様子や診療結果、連絡事項を「たのしい家伏見深草通信」に書き、写真とともに家族に送付している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の日常生活の中で関係性を把握し、普段の食事・テーブル配置などのグループ分けを行い、互いに支え合えるような支援に努めています。またレクリエーション等でも参加の声掛けをさせていただいております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりが必要な場合、連絡や相談の支援を行います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望の把握に努めています。ご家族様とも協力しながら、困難な状態であっても、表情や仕草等を観察し、出来る限り本人本位の支援となるようフロア会議で話し合い検討しています。	日々の関わりの中で聞きとった利用者の意向は、介護記録に書き、職員間で情報を共有している。6か月ごとに「ケアチェック表」を更新しており、その中でも利用者の訴えや希望の把握に努めている。コミュニケーションが困難になった方の行動には、表情や様子を観察して、カンファレンス時に支援の統一を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを利用し、生活歴・馴染みの暮らし方を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・管理日誌・看護記録、会議を通して、身心の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族様の意向を聴き取り、把握に努めています。必要に応じてカンファレンスを実施し、介護計画に反映しています。	毎月のフロア会議時に、利用者個々のカンファレンスを実施している。モニタリング(評価表使用)を3か月ごとにおこない、サービス担当者会議は6か月ごとで開催している。コロナ禍では、家族には電話で意向を確認して、サービス計画書に対する同意を受けている。介護課題は数個挙がっており、BPSDへの対応、転倒のハイリスク、身体の清潔を保つための支援などに取り組まれている。サービス内容に簡単な記載もある。	カンファレンスの方法として、各課題ごとの検討を提案する。課題、目標を達成するために、サービス内容は適切か、利用者の個別性を配慮して具体的に示しているかなど。職員間で介護の統一が、より図れる内容を望む。カンファレンス時の検討が介護計画に反映されることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、フロア会議でのカンファレンスで介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携での訪問看護・訪問歯科・福祉用具・ボランティア参加など、柔軟な対応を心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、出来るだけ多くの選択肢を入居者様に提供できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族様に主治医または、クリニックの説明をしています。月2回の定期往診があり、24時間の電話対応が可能。専門医等には家族様付き添いで受診に行っております。	入居時に利用者(家族)は、かかりつけ医に協力医療機関の医師を選択しており、月2回の訪問診療を受けている。熱発や急変時には24時間のオンコール体制で、受診や服薬の指示を得ている。利用者の希望で、歯科医(歯科衛生士)より週1回の治療と口腔ケアを受けている。職員と口腔ケアカンファレンスを実施し、ブラッシングの指導がある。訪問マッサージとともに、歩行訓練を受けている方もおられる。訪問看護師も週1回来所し、利用者の身体状況を見て、かかりつけ医、職員と情報を共有している。他の受診は家族が同行している。緊急時は「連絡体制表」に沿って対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日は看護師に訪問頂き、必要に応じて適切な医療機関への連携・施設内での対応のアドバイスをいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を通して、病院関係者・家族様と連携をとり、現状の把握・情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の方針を説明させて頂き、希望や方向性を聴き取らせていただいております。変化に応じてその都度、本人家族様・職員・主治医と話し合う機会をもち、終末期のあり方の方向性を決めています。	重要事項説明書に「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」「急変時・終末期における医療等に関する意向確認書」が記載されており、入居時に詳しく説明し署名捺印をもらっている。看取りに対する意向は必要に応じて取り直し、時期がくれば訪問診療医との話し合いを持っている。職員は本社からのオンライン研修を受け、段階を踏んでの看取り研修で、不安の軽減につなげている。看取り時は、コロナ禍であっても面会人数を制限せず、夕食時までは居室で家族との最期の時間を過ごしてもらっている。昨年は4人の方を看取られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応についてはフロア会議やカンファレンスなどで定期的に全職員に説明し実践できるように指導しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し、年に2回消防署立ち合いのもと、消防訓練を実施しています。コロナ感染予防対策中では、消防署に確認をとり、自施設内職員のみで訓練を実施しています。	年2回の消防訓練はコロナ禍の為、消防署の立ち合いはなく、利用者と職員で昼夜の火災を想定しおこなっている。水害については安心な場所の為おこなっていないが、万一の時は2階への垂直避難を周知徹底している。現在は地域に声かけせず、サイレンも自粛して訓練をおこなっているが、コロナが終息すれば地域の方にも参加を呼び掛ける予定である。備蓄は、水、粥、缶詰、簡易トイレ、衛生用品など、各フロアに3日分用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誤った声掛けには指導させていただいております。どのような声掛けがご利用者様に適しているのか、会議などを通じて話し合いをしております。	管理者は認知症高齢者に対して、声かけが重要であると認識している。職員の研修内容の一つとしてユマニチュードを導入している。声かけについては、職員側の希望を伝えるのではなく、利用者を尊重するという姿勢でおこなうように留意している。職員の成功事例を共有し、互いに学びあうようにしている。職員の言動で問題があると感じたときは、管理者が本人に直接指導したり、フロア会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望や希望は取り入れ、自己決定が出来にくい方は選択できるよう配慮しています。日常のケアの中で思いをくみ取れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の入居者様とのコミュニケーションを通して、出来る限り要望に応じられるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常は勿論、訪問美容後や外出先に応じた服装など、身だしなみにきを配るようになっています。外出は現在中止となっております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下体操や献立発表を行い、楽しく美味しく食べていただけるよう努めております。一緒に調理や食器洗い出来るご利用者様には一緒にさせていただいております。	以前は食材を購入し利用者と共に調理していたが、現時点では調理済みタイプの食事を利用している。温めたものの盛りつけやテーブル拭き、食器洗いなどに利用者の参加がある。イベント食は月1回以上はおこない、最近では、たこ焼きやカップ麺レクリエーションなどが好評であった。おやつレクリエーションはホットプレートを使用して、パンケーキやたい焼きなど作って楽しんでいる。食事の時は、個人の希望があればテレビもつけている。刻みやとろみ食は医師の指示を受け、職員が対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は記録に残し、好みの食事・飲み物などを把握し、提供しています。個々に刻み食や、ペースト食の対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の嚥下体操の実施と、食後は口腔ケアを促し、実行しています。又、毎週金曜日に訪問歯科での口腔ケアも行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タブレットの排泄表を利用し、個々の排泄パターンの把握、自尊心に配慮した支援をしています。	タブレット内(排泄表)で、利用者全員の排泄を管理している。排泄表を見て声がけ誘導し、自立の方にはトイレから出てこられたときに聞き取っている。リハビリパンツやパット使用は、各々に最適なものをフロア会議で話し合い、家族とも相談し購入している。トイレ使用後に衣類が濡れている時は、他の利用者に気づかれないよう、居室に誘導し更衣を促がしている。職員は本人の自尊心を傷つけないような、声かけを心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて個々の排便状況を把握し、なるべく薬に頼らない排便コントロールを心掛けています。内科往診にて状況を伝えさせていただいております。		

京都府 グループホームたのしい家伏見深草 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日分け等、最低限度の入浴日として設定していますが、時間を希望されるご利用者様には希望の時間で支援をしています。声掛けにてお風呂に行きたいと思ってもらえるように明るく対応させていただいております。	入浴日は週2回を基本とし、同性介助も実施している。皮膚の状態観察をおこない、手すりを持つ、身体を支えるなど転倒予防をおこなっている。利用者とのマンツーマンのコミュニケーションも大切にしている。定時の入浴時間を希望される方がおられ、希望に沿っている。シャワー浴や清拭で対応している方も数名おられる。入浴拒否のある方も、声かけなど工夫することで、問題なく入られている。季節湯や入浴剤は使用せず、シャンプーやせっけんは施設の物を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間・起床時間は特に設定しておらず、個々の生活習慣に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬を把握した上で、薬情を管理しております。症状の変化の確認・共有に努め、往診医に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルス感染予防にて、現在は中止しています。個々に得意な家事等のお手伝いなどの役割をもっておられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や状況に応じて外出支援をしていましたがコロナ対策により今は行っていません。家族様との外出も制限させてもっています。又、地域の行事に参加させて頂き、地域交流の機会をもっていました。今は行事が中止されています。	以前は散歩や買い物など日常的に行き、公園での地域の体操にも参加していた。事業所では、コロナ禍でクラスターが発生した経緯がある。幸いフロアで抑えることが出来、り患者も健康を回復されている。現在も外出の許可はでていない。感染予防は徹底しており、フロア間の利用者、職員の自由な交流は、まだおこなっていない。	事業所内の生活が続いているが、ベランダや玄関前を利用した日光浴や、外気浴を取り入れられないか。検討を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力や希望に応じC107:E112じ、お小遣いを自己管理し使う機会をもてるよう支援している方もおられますが預り金制度を利用させていただいております。		

京都府 グループホームたのしい家伏見深草 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話や手紙のやり取りが出来るようにしています。携帯電話を所持されている方もおられますが家族様の要望により電話がかからないようにされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく落ち着いた環境で過ごしていただけるよう、配色・電飾の色など配慮しています。季節に応じた風物を飾り、季節感を感じて頂けるよう工夫しています。	リビングルームには、大きな窓から光が差し込み、ベランダには洗濯物が干されている。リビングには大型の空気清浄機が2台置かれている。鏡を見て不穩になれる利用者のため、洗面所の鏡にはかわいい布を貼っている。口腔ケア用品や手洗いせっけんなどの物品は、棚の中に収納し、整理整頓がされている。居室に続く壁には、行事や誕生会の写真、利用者の書いた書道の作品が掲示されている。居室の表札の下には、ホワイトボードが設置され、折り紙を飾られている方もいる。掃除は毎日職員がおこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは広く、個々のスペースを持てるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アセスメントなどで、本人様がどのような暮らしをされてこられたかをお聞きし、本人様の使い慣れた家具や、馴染みのある物を使用して頂き・居心地よい空間で過ごされるよう工夫しています。	居室にはベッド、クローゼット、エアコン、カーテンが設置されている。自宅での暮らしを継続することを家族に依頼しており、使っていたテーブルや椅子、テレビを持参されている方や、仏壇を持ち込まれる方、新聞をとっておられる方もいる。職員は、その方の趣味や好みに合った暮らしを意識して支援している。掃除は職員がおこなうが、拭き掃除をされる利用者もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	簡単に様々なものを使用することが出来るよう配慮しています。		